

大学が消える街

箱崎は今

◆ 6

「ここで働き始めたのは 安武さんは、店の前の路
大学紛争の真ただ中。待 面電車電停から、竹ざおに
機の警察官や新聞記者が朝 ヘルメット姿の学生が大挙
から晩まで居座って困りま して佐世保に向かう光景を
したよ」。安武昭祐さん(六三)

社会全体が熱かった

(福岡市東区箱崎)を手伝 覚えている。電車に乗ろう
うようになった。四十年を とする活動家と、竹ざおの
経ても記憶は鮮烈だ。 持ち込みを拒む運転士が延
々と押し問答を繰り返す

米軍戦闘機「ファントム」 が店の目の前の九州大学箱 騒動は日常茶飯事。
崎キャンパスに墜落し、米 ても、活気はあったねえ」
原子力空母「エンタープラ

◇ ◇

青春

イス」は長崎県佐世保港に サヨンに近いJR箱崎駅
寄港した。抗議の学生運動 前の「ロックスポット」レ
が燃え上がっていた。 ノン」は、学生運動の残り

香が漂う七四年にオープン 頼み込む学生も多かった。
した。大音響の店内に、五 ロックは反体制や既成概
千枚を越すレコードが並 念打破の象徴でもあった。
ぶ。 活動家が入りし、夜を徹

九大生に限らず、高価な しての議論も。「音楽や思
レコードに手が出ない市内 想を熱く語る人が多かつ
の学生たちが通い詰めた。 た。社会全体が熱かったん
「毎日、コーヒ一杯で粘 だろうね」。高山さんは懐
る学生もいたな」。ビート かしむ。

ルズやローリングストーン スにあこがれて店を開いた 七五年に路面電車がなく

◇ ◇

高山廣さん(五八)は、長髪に なり、人の流れは大きく変
ジーパン、Tシャツ姿の若 わった。「政治の季節」が
者たちを思い出す。 終わり、学生運動も下火に

銭湯代を惜しんで店に通 なった。食堂「サヨン」と
う学生を「汗臭くてたまら ロック喫茶「レノン」は夜
ん。金を出すから風呂に行 だけ開く酒房、ロックバー
ってこい」と送り出した。 にそれぞれ姿を変えた。

自分の好きなレコードをか 箱崎キャンパスの移転が
けたくて「バイト代はいら 本格化し、いま大学周辺の
ないから雇ってほしい」と 飲食店は激減する。安武さ

んは「ずっと学生相手に箱 崎でやってきた。ここを離
れるときは閉めるとき」と りと訪れ、青春時代の思い
覚悟する。高山さんも、で 出話に花を咲かせる客が絶
きる限り店を続けるつもり えないという。



5000枚を越すレコードが並ぶ「レノン」。昔を懐かしむ 遠方からの客も少なくない